群教セ	G09 － 02
	平26.254集
	英語－中

聞いたり、読んだりして得た情報に対して質問や応答ができる生徒の育成

――複数の技能を結び付けた指導を通して――

特別研修員　福田　守宏

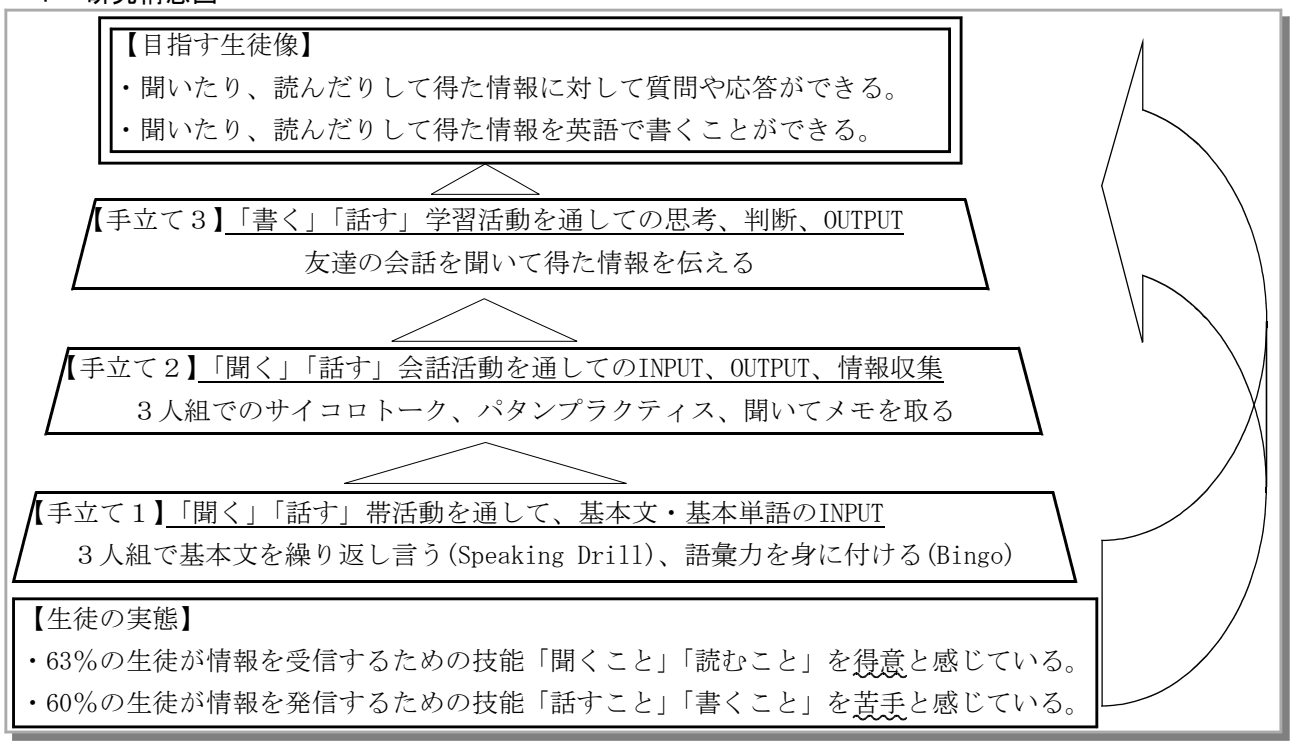
Ⅰ　研究テーマ設定の理由

現行の中学校学習指導要領外国語の改訂の趣旨に「『聞くこと』や『読むこと』を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、『話すこと』や『書くこと』を通じて発信することが可能となるよう、４技能を総合的に育成する指導を充実する」とあり、４技能をバランス良く伸ばすことが求められている。

本校生徒の実態をみると、情報を受信するための技能「聞くこと」「読むこと」について、得意と感じている生徒は学級の63％であった。一方で、情報を発信するための技能「話すこと」「書くこと」を苦手としている生徒は学級に60％いた。このような実態を踏まえ、生徒が得意とする技能と、そうでない技能を結び付けた授業を行えば、得意と感じていない技能を伸ばすことができると考えた。具体的には、「聞いて、書いて、話す」、「聞いて、話して、書く」といった授業展開を繰り返すことで、「受信する力」と「発信する力」を相乗的に伸ばしたい。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

(1)帯活動の充実（Input）

①Speaking Drill

生徒に身に付けて欲しい基本文を、友達とペアになり言い合う活動に取り組む。「英語を聞いて、そ

のままリピートする」「日本語の意味を聞いて英語を言う」「英語を言ってもらい日本語の意味を言う」といった活動を自分で選択してから行う。３人組で取り組むことで、一人は、友達のペア活動を聞く機会を設定できる。

②Bingo

その単元で使われる新出単語の定着をねらい、毎授業取り組む。教師の発音に続いて、生徒も発音をしてから単語をチェックすることで、音と単語の綴りを一致させることができる。

(2)会話活動の充実（Input、Output）

①サイコロトーク

帯活動の３人組を活用し、サイコロの出目に応じて友達に質問をし、会話を続ける活動に取り組む。３人組の形態であるため、ペアの会話内容をチェックさせることができる。会話活動後に、文法的な間違いを指摘する生徒もいた。

②３人組での会話活動

本時の身に付けさせたい表現を用いた会話活動に３人組で取り組む。発話をせず聞いている生徒は、会話内容に注意して聞き取り、メモを取る。そのメモが、その後の書く活動の資料となる。また、会話を聞いて、その内容についての質問を考え、疑問文を書く。さらに、その質問を友達に投げかけ、書く活動のための情報量を増やす活動も必要に応じて取り入れた。

(3)「話す」「書く」活動の充実（思考、判断、Output）

友達の会話活動を聞きながら取ったメモの内容を、話したり、書いたりして情報を伝える活動に取り組む。話す内容や書く内容を、より充実したものにするために、聞き取りメモをした内容についてじっくりと見直し、考え、その内容に即した質問を考え書き出す。その後の会話活動の中で、その質問を用いて問答することで、更に情報量を増やし、その後の話す内容、書く内容を充実させることができる。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　生徒は得意意識を持つた技能を活用する活動から入ることで、英語に苦手意識を持っている生徒にも、抵抗が少なく授業に入ることができた。単に話して終わりではなく、書くことまでつなげることで、話しているだけでは気付くことができない間違いに気付くことができていた。

○　３人組の活動にしたことで、２人組の時にはできなかった友達の会話を「聞く」機会を作ることができた。

○　「書いたことを話す」という学習活動では、英語学習の初歩段階にある１年生にとっては、会話活動に自信を持って取り組むことにつなげることができた。

２　課題

○　会話や書く活動では、質よりも量を求めてしまった。１年生という実態と、会話や作文の質のバランスを考えた授業作りが必要であった。

○　複数の技能を一時間の授業に取り入れることで、一つ一つの活動にじっくり時間をかけることができないこともあった。

３　提言

○　小学校段階で音声中心の外国語活動に慣れ親しんできた生徒達にとって、「聞く」ことから学習活動が展開されることは、英語学習に苦手意識のある生徒にとっても抵抗感を低減することができた。

○　聞いた情報に対して応答や質問をする際、英語に書き出してから会話をすることで、受信した情報に対してどのように応答するべきかを思考する練習になる。英語の学習段階に応じて、英語で書き出すことを徐々に少なくすることで、即時的に応答する能力が付いてくると考える。

実践１

１　単元名　Unit 3 はじめまして、ブラウン先生（第１学年・１学期）

２　本単元及び本時について

本題材は、アメリカ出身のブラウン先生が初めて授業を行う場面である。JTEの田中先生が、既習事項である、This is ～ やShe is ～の表現を用いて紹介をした後、ブラウン先生がlike, play 等の一般動詞を用いて自己紹介をする。その後、生徒は、Do you ～?を用いてブラウン先生に質問をする設定になっている。生徒にとっては、新しい先生がやってきて、英語で質問をするという場面は自然な設定であり、同じような活動を小学校の英語活動や中学校での最初のALTとの授業でも経験している。

既習事項として、be動詞を学習し、その肯定文、否定文、疑問文とその答え方に慣れてきているところである。この題材で初めて一般動詞が扱われ、その肯定文や否定文、疑問文と答え方を学習することで、その後の題材で行われる口頭でのインタビュー活動等の言語活動に大変有用である。また、一般動詞を学習することで、興味や関心のあることに言及する自己紹介にまで発展させていくことができる。

本時では、教科書の設定と同じような、「自己紹介を聞く」「その内容について問答する」という流れを会話の自然な流れに沿ってできることをねらいとした。

３　授業の実際

本時は、「友達の興味・関心のあることについての発表に対して、自然な流れの中で質問をしたり、反応したりすることができる」ことをねらいとした。使用技能の流れは、「聞く」「書く」「話す」となる。帯活動後のサイコロトークを、その後の会話活動の練習とできるように関連させた。サイコロトークでは、Do you ～？や Are you ～？の疑問文に慣れることを目指した。答える側は、単にYes, Noで終わるだけではなく、更に一言加えたり、答えに詰まってしまった時の表現Let's see.なども自然に使えるようにするため、事前にALTとの例示やヒントを示したワークシートを用意した。

３人組で行うことで、一人の生徒は、友達の会話活動を聞く機会を得ることができる。落ち着いて友達の会話活動を観察することで、改善点に気付き、自分の会話で改善しようとすることができる。

【サイコロトーク】

Do you～？や Are you～？の疑問文とその答え方に慣れる。サイコロの出目に応じて動詞が指定され、質問する内容が決まる。何を質問したらよいのか分からず、会話が止まってしまう生徒への支援となる。

３人組で行う。「サイコロを振り質問する生徒」、「質問に答える生徒」、「友達の会話を聞き評価する生徒」の役割をそれぞれが担当する（図１）。

図１　サイコロトークの様子

S1:「１」が出た！
Are you good at soccer?

S2: No, I am not.

S1:「３」が出た！
Do you like blue?

S2:「え～と～」Yes, I do.
I like blue.

T: Yes / No だけではなく、もう１文加えられるとよいね！

S1:「４」が出た！
Do you play the piano?

S2: Let's see. No, I don't.
I don't play the piano.

T: 答えに詰まってしまったら、Let's see.なんて言えるとよいね！

S3　3回質問と答えが言えていたから評価は「A」だね。

S1【自己紹介を発表（図２）】
Hello everyone.
I'm Ichiro. I'm from Hishimachi.
I like fishing. I play tennis.
I like baseball, too.

S2【自己紹介を聞きメモ】

from	菱町
like	釣り
play	テニス
その他	野球も好き

図２ 自己紹介の発表

図３ メモを見直し質問を考える

S2【メモを見直し質問を考え書く（図３）】
野球が好きみたいだけど、一郎くんは野球をするのかな？
Do you play baseball?
テニスは得意なのかも聞いてみよう。
Are you good at tennis?

図４ 考えた質問で会話活動

S1, S2【スピーチから内容に付いての問答へ（図４）】
S1: Hello everyone. I'm Ichiro. I'm from Hishimachi.
I like fishing. I play tennis. I like baseball, too.
S2: Do you play baseball?
S1: Yes, I do. I play baseball.
S2: Are you good at tennis?
S1: Yes, I am. I am good at tennis.

事前に準備したため会話がスムーズに進められた。

【最後に行った会話活動を思い出し、英語に書き出す活動】

友達の自己紹介を聞き、そのスピーチに対して自分がどの様な質問をしたら、どんな答えが返って来たのかを想起し英語で書き出した（図５）。話して終わりではなく、自分が実際に発した言葉、友達から聞いた答えを思い出し、英語に書き出すことで自分の会話の確認ができる。書き出したワークシート（図６）を添削し返却することで、間違いに気付くことができた。

図５ 会話を振り返る

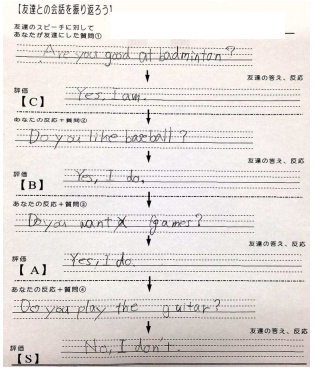


図６ 生徒のワークシート

４　考察

本時の展開として、「聞く」「書く」「話す」「書く」という順で技能の活用場面を入れた。１年生の現時点では、聞いたことに即時的に反応し、質問をすることはかなり難しい。そのため、一度、メモを取りながら聞き取り、質問したいことをじっくりと考え、質問を英語で書いてから再度スピーチを聞いて、その内容について質問する会話活動を入れた。生徒たちは、一度書き出し、教師に確認してもらった疑問文であるため、その後の会話活動で自信を持って発話できていた。また、授業冒頭のサイコロトークで、質問にすぐに応じることと、Yes, Noの後で更に一言付け加えることを意識させたため、最後の会話活動でもそれを生かせている生徒がいた。また、be動詞の疑問文、一般動詞の疑問文を混在させた内容にしてあったため、be動詞と一般動詞の疑問文の答え方にも注意を払いながら会話をする様子が見られた。しかし、今回の授業では、質問を考える際にどのような目的で質問を考えるのか、どのような質問がよいかなど、ポイントの捉えが甘かったため、質問内容の質的な向上が今後の課題である。

以上のことから、会話活動の前に話す内容をじっくりと考え、書き出す時間を確保することが、英語学習の初歩段階にある生徒にとって、その後の会話に自信を持って取り組む一助となると考えられる。

実践２

１　単元名　Unit 6 （第１学年・２学期）

２　本単元及び本時について

本題材は、ベッキーが写真を見せながら自分の祖母のことを紹介する場面である。紹介の後、ブラウン先生がベッキーの祖母についての質問をし、それにベッキーが答える。そして、更に祖母の好きなことについての詳しい情報が述べられる内容である。本単元の新出言語材料は三人称である。生徒は、自分のこと、話している相手のことについて表現することに十分に慣れてきている。家族や友達、好きなスポーツ選手、有名人等を誰かに紹介したり、今まで以上に話題を広げたりできるようになるという点で、三人称を学習する意義は大きい。しかし、自分（一人称）、話している相手（二人称）、話題になっている人物（三人称）について、人称という概念が生徒にとっては不慣れであり、理解に時間を要すると考えられる。そのため、今までの授業で取り組んできた３人組での活動を取り入れ、三人称の理解を深めたい。

本時は、友達のインタビュー活動を聞きながらメモをとり、その内容を基にして友達の紹介文を書く。その紹介文を更に詳しくするための情報を得るために、質問を考え英語で書き出す。その質問を使って会話活動に取り組み情報を得る。その情報を友達紹介文に書き加えることで、紹介文の内容をより充実させることができる。聞くこと、話すことで得た情報を書くことにつなげることで、複数の技能を高めていくことをねらいとした授業である。

３　授業の実際

人称の違いが分かる会話活動を工夫することで、既習事項である一人称、二人称から、新出の三人称へとつながりを持って理解を深められるように、意図的に全ての人称を使う場面を設定した。与えられた動詞を用いて自分自身のことを相手に伝える（一人称）。伝えられた内容を相手に確認する（二人称）。確認できた内容をもう一人の友達に伝える（三人称）。伝えられた内容のメモをとる。メモを基にして友達の紹介文を書く。この活動は３人組で取り組む。伝えてもらった情報からでは、４文程度の紹介文しか書くことができない。その紹介文を更に詳しくするために、質問を考え、会話活動を通して情報を得る。

使用する技能の流れは、「話す、聞く」⇒「話す」⇒「書く」⇒「話す」⇒「書く」となっている。

【人称の理解、書くための情報を得る活動】

選んだカードは like
S1→S2: I like tennis.
⇐ 選んだカードに書かれている動詞を用いて、自分の情報を伝える（一人称）

S2→S1: You like tennis.
⇐ 聞いた情報を確認する（二人称）

S2→S3: She likes tennis.
⇐ もう１人の友達に情報を伝える（三人称）

S3は聞きながらメモをとる

	使われた動詞	内容のメモ
①	like	tennis
②	live	Nakamachi
③	have	a dog
④	play	the piano

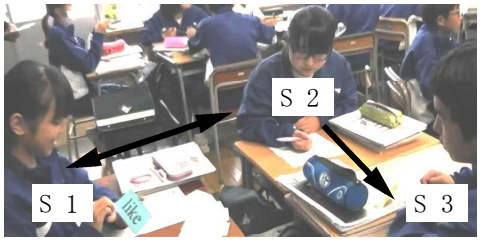


図７　活動の様子

【聞き取った情報を基に友達の紹介文を書く（図８）】

This is my friend (Sakura).
① She likes tennis.
② She lives in Nakamachi.
③ She has a dog.
④ She plays the piano.

図８　生徒作品

Ｔ：動詞にはsが付くことに気を付けよう。studyの様な不規則な変化もあります。
＊三人称であることの意識をもたせる助言。

【友達の紹介文を更に詳しくするために】

T: この紹介文を、更に詳しい文章にしよう。そのために必要な情報を得るための質問を考えて書いてみよう。

This is my friend (Sakura).
① She likes tennis.
② She lives in Nakamachi.
③ She has a dog.
④ She plays the piano.

S3:犬を飼っているみたいだけど、猫は好きか聞いてみよう。
新しいテニスラケット欲しいかな？…
Q1 Does she like cats?
Q2 Does she want a new racket?
Q3 Does she like English?

【質問をして更に情報を得る（図９）】

S3→S1: Does she like cats?
S1→S2: Do you like cats?
S2→S1: No, I don't. I don't like cats.
S1→S3: She doesn't like cats.

実践１で学んだ、Yes, Noの答えに更に一文加えることができた生徒もいた。

S3は、聞いた情報のメモをとる

⑤	Does she like cats?	No
⑥	Does she want a new racket?	Yes
⑦	Does she like English?	Yes

図９ 紹介文を詳しくするための情報を得る

【紹介文の完成】

This is my friend (Sakura).
① She likes tennis.
② She lives in Nakamachi.
③ She has a dog.
④ She plays the piano.
⑤ She doesn't like cats.
⑥ She wants a new racket.
⑦ She likes English.

質問を通して新しい情報を得たことで、更に内容を充実させることができる文を３文書き加えることができた。

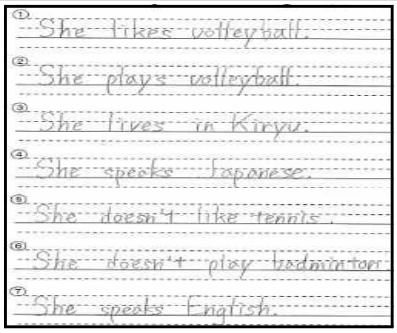


図10 生徒作品

４ 考察

本時の展開は、「話す、聞く」「話す」「書く」「話す」「書く」という順で技能の活用場面を取り入れた。最初の活動の中で、一人称で伝え、二人称で確認し、三人称で伝える３人組の活動を入れたことで人称の違いによって動詞の変化に注目できるようになった。また、３人で取り組んでいることで、動詞の変化の間違いを指摘し合う場面も見られた。インタビューを聞いて、動詞と目的語のみをメモしたが、それを英文にする際にも、動詞の変化に注意を払いながら書いている生徒が多く見られた。４文書けた紹介文を７文以上にするための情報を得る質問を考える時には、帯活動で取り組んでいるSpeaking Drillで練習した表現を参考にしながら書いている生徒もいた。三つの質問をし、更に三つの情報を得たことで、全ての生徒が、本時の目標である「７文又は、25語以上の友達紹介文を書く」ことができた。しかし、紹介文の内容を見ると、He has a pen.や She speaks Japanese. 等の質的な部分を考察すると、不十分な部分もある。また、最後の会話活動では、同じグループのすぐ近くにいる友達についての質問を、第三者を介してわざわざ聞かなければならない不自然な状況になってしまったため、ニュースキャスターとリポーターのような場面設定を行って、情報を得るための会話活動にするなど、場面設定を工夫する必要がある。

以上のことから、書いた内容を話し、書くための情報を会話を通して得るという活動をしたことで、会話を通して得た情報を文章にし、より詳しい紹介文を完成できたという達成感を感じさせることができた。目標を全生徒が達成できたことから、情報を発信する技能の向上が図られたと考える。